

平成 26 年 4 月 15 日

記者発表資料

～神奈川県住宅供給公社の団地再生に向けた取組み～
若葉台団地における多世代交流拠点として全国初の
「コミュニティ・オフィス&ダイニング春 (Haru)」オープンのお知らせ

神奈川県住宅供給公社では、運営共同事業者と団地再生に向けた取組みとして、平成 26 年 4 月 22 日に、横浜市旭区若葉台団地商店街ショッピングタウンわかば内に「コミュニティ・オフィス&ダイニング春 (Haru)」をオープンしますのでお知らせいたします。

1 事業の背景と目的

少子高齢化の進行等、郊外型団地が直面する課題に対し、地域活動が活発な横浜市旭区若葉台団地において、団地再生の方向性を「元気なシニア世代の生きがいの創出」、「団地内への若年・子育て世代の流入」を目指した「持続循環型のコミュニティを創造すること」を目的として、多様な施策を総合的に推進することとしています。

その一つの施策として、まずは中心商店街の活性化に向け、「職」と「食」に焦点を当てた「コミュニティ・オフィス&ダイニング」の運営について昨年 12 月に運営事業者の公募を行い、この 3 月末に改修工事が完成し、「コミュニティ・オフィス&ダイニング 春 (Haru)」をオープンする運びとなりました。

2 施設概要

- ・コミュニティオフィスでは、全県的な超高齢社会の進行への対策として神奈川県が「未病を治すかながわ宣言」として提唱する 3 つの取組み（食、運動、社会参加）のうちの一つである「社会参加」といった視点も踏まえ、団地再生に関する取組みの拠点として、各種情報発信や地域課題に関する取組みを支援する場とします。そして、高齢者や若者、豊富な知見を持つ団地住民の皆様と協働し、ソーシャル・コミュニティビジネスが萌芽するような場とします。
- ・コミュニティダイニングでは、神奈川県が提唱する「健康寿命を延ばす」「未病を治す」といった施策を踏まえ、健康増進に留意したメニューを提供します。また、県内産自然野菜の活用や定期的な料理教室の開催等を通じ、団地及び周辺地域に対し、これらの理念を広く発信します。
- ・施設の床材には、中井町で公社が参画する中井メガソーラー事業から発生した伐採材を使用するなど、資源・エネルギーの地産地消の取組みも展開しています。
- ・新しいことが始まる予感、新芽（新しいビジネス）が芽吹くことから「春」というやさしく温かい響きの言葉を、当施設の名称として採用しました。

3 今後のスケジュール

- 4月19日（土） 団地内外の住民等を対象とした施設内覧及びプレオープンイベント
4月21日（月） 黒岩県知事 プレオープニングイベント（試食会）
4月22日（火） 本格オープン

4 参 考

【若葉台団地の概要】

- (1) 所 在 神奈川県横浜市旭区若葉台
- (2) 交 通
- ・ JR東日本横浜線「十日市場」駅下車、バス約10分
 - ・ JR東日本横浜線、東急田園都市線「長津田」駅下車、バス約13分
 - ・ 東急田園都市線「青葉台」駅下車、バス約18分
 - ・ 相模鉄道「三ツ境」駅下車、バス約22分
 - ・ 相模鉄道「鶴ヶ峰」駅下車、バス約25分
- (3) 団地属性 昭和54年から計画的に開発された分譲住宅・賃貸住宅の複合団地
(公社賃貸住宅7棟792戸、分譲住宅66棟5,186戸ほか 計6,304戸)
- (4) 開発面積 約90ヘクタール
- (5) 人 口 15,142人（H26.3.1現在）
- (6) 高齢化率 約36.5%（H25.9横浜市旭区人口・統計データ）

問い合わせ先：

神奈川県住宅供給公社 総務部

広報担当 課長代理 吉田 一彦

秋山 京子

電話 045-651-1842 （平日9:00～17:30）



平成 26 年 4 月 15 日

記者発表資料（参考資料）

運営共同事業者のご紹介

コミュニティダイニング春（Haru）監修 【青柳主人 小山 裕久】

- 1949 年 徳島生まれ
- 1997 年 フランスにおける日本年。『ベルサイユにおける味覚週間』に
招聘され、小学生への日本料理教室などを行い、ベルサイユ市
名誉市民の称号を贈られる。
- 同 年 ジョエル・ロブション氏との対談（パリ日本文化会館）
- 2000 年 ジョエル・ロブション氏と恵比寿タイユバン・ロブションにて
「20 世紀の晩餐会」
- 2004 年 日仏の食文化交流への貢献が認められ、フランス政府より、
農事功労章シュバリエ（Chevalier）を授与される。
- 2006 年 NPO 法人 日本料理文化交流協会を設立し、文化としての
日本料理の研究、海外および国内への普及・啓蒙に努める。
- 同 年 国際交流基金 パリ日本文化会館初の食文化アドバイザーに就任
- 2010 年 日仏の食文化交流への長年の貢献が認められ、フランス政府より
農事功労章オフィシエ（Officier）を授与される。



OFFICE AND DINING
Haru

